

論題：『夢前花街道事業』と『加点式健診事業』の連携による実践研究
—文理融合・異分野共創による地域活性化事業—*

社会システムイノベーションセンター 藤岡 秀英

(1) 夢前花街道事業

これまで「経済社会政策」を研究テーマとして、医療保険と介護保険の研究を土台に「地域創生政策」の理論と実践に取り組んできた。この「よいとこ健診」も、姫路市夢前町山之内地区における「夢前花街道事業」という地域創生事業の一環として進めている。

「夢前花街道事業」は、地域住民と大学生がさまざまな舞台で交流を深める取り組みであり、例えば「盆踊り再開事業」「カモミール収穫ボランティア」等、それら事業を通じて、大学関係者と地域住民との交流が「よいとこ健診」の実施につながっている。

(2) 文理融合・異分野共創

この実践研究の特徴として様々な分野の研究者、地域自治会、民間事業者を中心とする、産官学の協働があげられる。大学関係では、社会システムイノベーションセンター、経済学研究科、医学研究科、甲南女子大学、兵庫教育大学、立命館大学から研究者 11 名と院生、学部生が多数参加している。2021 年 7 月現在、岡山大学医学部、鳥取大学医学部からも学生参加者が加わっている。そして、「(株)香寺ハーブガーデン」をはじめとする地域の民間企業や、夢前包括支援センター、姫路市中央保健センター・安富分室、夢前町前之庄校区・長寿会（老人会）の地域組織も参画している。

(3) 「よいとこ健診」（加点式健診）の新規性

「加点式健康診断」は、医学研究科・地域医療教育部門の岡山雅信教授、八幡晋輔助教によって考案された、新しい「ほめる」健康診断である。この健診では様々な健診票を参考にした問診票で、家族、職業、運動量、人付き合いなどから健康や活動、心の状態を尋ね、良い部分を見つけ出すことから始める。その結果をもとに、健康にプラスの効果をもたらす部分を「ほめること」が目的である。

一般的な健診は、健康上の問題点を発見するものであるが、「よいとこ健診」は、まったく逆に「良いところをほめる」ことで、フレイル予防、健康づくりのモチベーションアップにつながる「行動変容」をうながす。自己記入型の健診票をもとにする「よいとこ面談」は研修を受けた大学生参加者が担い、そこでの大学生との交流体験を通じて、ほめられることにより受診者の健康づくりへの意欲を引き上げる。それが「地域のイベントに参加しよう」というモチベーションにつながることを期待される。これら一連の取り組みを通じて、一般の健康診断の受診率と高め、フレイル予防の向上を目指し、中長期的には、夢前町での一人当たり医療費・介護費の抑制につながり、同時に、「コミュニティ活動」への積極的な参加と地域活性化に結びつけることがねらいである。

また、2020 年度には、コロナ禍のなかでも、IT を活用した「オンライン健診」を開発し、9 月と 3 月に夢前町前之庄公民館にて、Zoom を使った「よいとこ健診面談」を 2 回実施した。これにより全国のどこでも「よいとこ健診（加点式健診）」が可能であることが実証できた。参考：<https://www.med.kobe-u.ac.jp/dcme/yoitoko/>

* ※本研究事業は、社会システムイノベーションセンターの主要プロジェクトのひとつであり、医学研究科・地域医療教育部門、岡山雅信教授と共に 2018 年から取り組み、日本生命財団と科研基盤研究（B）による助成を得ています。